

# 広島別院だより

Vol.38  
秋号

真宗大谷派（東本願寺）  
広島別院教化委員会 発行

## 秋彼岸会が勤まる

九月二十六日、秋彼岸会が勤まりました。法話は比治山町の泉原寛康師（安芸南組法正寺）です。以下、法話の抄録です。

### ●歩み始めて気づかされる身の事実

善導大師の例え話に「二河白道の比喻」がある。これは、ひとりの行者が彼岸に浄土に向かつて歩み始めた時、忽然と水と火が激しく交錯する河に行く手を阻まれる話である。河には細くて白道が一本あるだけで、この道を行くしか助かる方法は無い。すると突然、河の手前で立ち尽くす行者に、釈尊の「そのまま行け」という声と阿彌陀仏の「恐れずに来い」という声が聞こえてきた。その声に励まされ行者は無事に浄土に到るのである。水は人間の貪欲を、火は人間の瞋恚怒り・憎しみを表している。

この話の興味深いところは行者が歩み始めた後に水火二河が現れることである。何か人生の問題があつて、それを解決するために仏道を歩むのではなく、仏道を歩み始めたことで問題にぶつかるといふことである。つまり、仏道を歩むといふことは貪欲や瞋恚を抱え悶え苦しむ我が身の事実気づかされるといふことであり、歩まなければ問題を抱えていても気づかずに生きるといふことに他ならない。



泉原寛康 師

### ●阿彌陀仏は何処に

この例え話について藤元正樹先生はさらに面白い話を付け加えられた。釈尊と阿彌陀の励ましによって無事に浄土に辿り着いたのだが、浄土の主である阿彌陀仏は留守だった。では、阿彌陀仏はどこに行つたのか。実は此岸（人間の住む迷いに世界）にいたのだ。

私の住む寺に、金子大栄先生から頂戴した「破調和如来」と書かれた書がある。これは恐らく金子先生の独創であろう。解するに阿彌陀如来は調和を破り（浄土のさとりをあえて捨てて）、私たちが生きる此岸（迷いの世界）にすでに来たり至つているという意味であろう。阿彌陀仏は浄土の世界で安閑としているのではなく、迷いの世界で私たちを目覚めさせるべく日夜はたらき続けているのである。そして、白道は私が志を持って歩む道なのではなく、阿彌陀仏が私に先立って浄土から此岸にやって来た足跡なのである。

### ●そのままの救い

仏道を歩み始めたことによつて我が身の事実が知らされる。ならば、私たちが抱える貪欲や瞋恚はなくなるのか。答えは否である。歩めば歩むほど問題の根深さを知らされるのである。しかし仏はそれを百も承知で「そのまま救うぞ」と仰せられる。大切なことは我が身の事実気づかされるかどうかである。

### ●浄土真宗の仏道

本来、仏道とは六波羅蜜などの厳しい修行を経たさとりを開くことである。しかし浄土真宗の仏

道は仏法を「聞く」ということに尽きる。「聞く」ということが浄土真宗の仏道なのである。「三帰依文」に「人生において仏法を聞く身になることは大変稀なことである。しかし私はすでに聞かせていただいていた」という一節がある。今日こうして私たちは別院彼岸会という仏法聴聞の座にすることが、仏のはたらきによつてすでに仏道を歩ませていただいているという事実なのである。

## 真宗の仏事入門講座開催

九月十七日、真宗の仏事入門講座（講師・本山本願部長 近松誉師）の追加講座が開催されました。

今回は前回に続き、東西本願寺の作法や仏具の違いについての講義でした。元々、東西本願寺ともに同じ作法だったようですが、特に西本願寺の第十四代寂如の時代に度重なる改革によつて、東西本願寺の作法（仏具や声明）に大きな違いが生まれ、ていつたことなど興味深いお話でした。

次回は十二月十七日（土）の開催です。ぜひ、ご参加ください。



近松誉 師

親鸞聖人の生涯を辿る

夢告(むこく)

六角堂への参籠中に親鸞が受けた夢告は一説には女犯偈(によぼんげ)と呼ばれる偈文だと言われている。内容は次の通りです。

行者宿報にてたとひ女犯すとも  
われ玉女の身となりて犯せられん  
一生の間よく莊嚴して  
臨終に引導して極楽に生ぜしめん

この夢告が法然のもとに向かわせたきっかけになったようです。この偈文から女犯すなわち性が問題になっていることが読み取れます。しかし、これだけでは法然のもとに向かった理由が分かりません。この偈文には続きがあります。

これは是我が誓願なり  
善信この誓願の旨趣を宣説して  
一切群生に聞かしむべし

この偈文から親鸞は戒律を破り妻帯しても在家生活の中にこそ仏道があるのだと受け取ったのでしよう。九十五日目に受けた夢告により真の仏道を確信した親鸞は俗世で教えを広めていた法然に出会うことこそが自分の使命であると直感したのではないのでしょうか。

法座・講座等のお知らせ

12月7日(水) 8日(木) 報恩講

【日程】 7日(水) 14:00～勤行と法話 16:30～御伝鈔の拝読  
8日(木) 8:00～勤行と法話 10:00～勤行と法話  
【講師】 7日(水) 北広島町順覚寺 住職 淀淵一思 先生  
8日(木) 銀山町徳栄寺 住職 灘尾 寛 先生



淀淵一思 師



灘尾 寛 師

＜親鸞聖人のご祥月命日を縁として勤める

浄土真宗の最も大切な法要です＞

12月17日(土) 真宗の仏事入門講座

【講師】 近松 誉 先生 (東本願寺本廟部長)  
【日程】 13:30～16:00 【会費】 500円



浄土真宗の仏事について学ぶ講座です。ぜひご参加ください。

毎月5日 定例法話 (ご今日の集い)

【講師】 県内僧侶(月替わり) 【日程】 14:00～勤行と法話(15:00 終了予定)  
＜広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。＞ ※1月は休みです。

講座・法要・定例法話にお参りの際は、マスク等してコロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。

道場樹

【編集室より】

痛風になりました。ある日突然、足首の激痛に襲われた。捻挫した覚えはない。どうも痛風が発症したようである。以前から医師に「尿酸値高いし、いつ出てもおかしくないよ」と言われていたので、ついに来たかと。

それにも拘らず、夕食のメニューがお好み焼きだったので、つついっぺいビールに手が伸びてしまふ。ビールが痛風に悪いのは分かっているのだが…。

♪わかっちゃいるけど、やめられない♪と、かつてクレイジーキヤッツの植木等氏が歌ったこの歌を父親の植木徹誠師(真宗大谷派僧侶)が「これこそ御開山親鸞聖人の教えだ」と絶賛されたとか。

痛風になってわかったことがある。痛風はあまり同情されない。お参りに行った先で痛風だと言えは、ほぼ「住職さん、美味しいもんばっかり食べとるけえよ」と笑われる。以来、ご門徒には捻挫したと言っことにしている。(H・N)

